



鄭 美愛 駐名古屋韓国総領事

第 72 回 東海財界倶楽部例会

駐名古屋韓国総領事が 未来志向の韓日関係を熱弁

企業の経営トップを中心とした中部財界フォーラム社の異業種交流会「第 72 回東海財界倶楽部」の例会が 9 月 10 日、名古屋市東区東桜のホテルオークラレストランで開催された。この日の講師は鄭美愛（ジョン・ミエ）駐名古屋韓国総領事で、好調な日韓関係を受けて、未来志向の両国の交流促進などについて、流暢な日本語で力強く語った。約 30 人が熱心に聞き入り、「非常に勉強になった」と語る参加者もいた。

鄭総領事は「韓日関係と駐名古屋大韓民国総領事館の役割」の演題で講演、冒頭、自身のプロフィールを紹介した。1991 年に韓国の名門、梨花女子大学大学院での修士（政治外交学）を経て、日本の筑波大学に留学し、同大大学院で 96 年に修士、2000 年に博士（いずれも国際政治経済学）を取得。その後、駐日本韓国大使館主任研究員を務め、17 年に駐新潟韓国総領事に就任。大統領の任命により民間人として総領事を 2 回経験したのは、韓国外交部で鄭総領事が初めてという。24 年からソウル大学日本研究所客員研究員などを歴任し、26 年 3 月から現職。

鄭総領事は①日本における韓国公館の現状②駐名古屋韓国総領事館の仕事と活動③データで見る韓日関係④変化の原動力⑤分野別協力のビジョンの 5 つの視点で丁寧に語り始めた。①では国を代表する大使館に対し、総領事館は地域に根ざした外交拠点であり、国際機関の代表部と合わせた 3 種の在外公館の役割を解説。日本にある韓国の在外公館は大使館と 9 総領事館で、駐米国では国連代表部を除き、大使館と総領事館数は日本と同じで最多、とした。②では国民の保護、親善友好活動を中心に、韓日未来発展セミナーや韓日経済名古屋フォーラム、K - P O P を含む一大行事、韓国フェスティバル in 名古屋（11 月 14 日、15 日に開催予定）といった政務、経済、文化などの面で多彩な活動を実施。鄭総領事は中日新聞のコラム「なごやか外交」を定期的に執筆し、インタビュー記事が掲載された弊誌も紹介、韓国の魅力発信に

努めているエピソードを披露した。

また、③では韓国人の日本に対する好感度が昨年は 63.3% と史上最高を記録、5 年で 5 倍に跳ね上がった。④の変化の原動力は、米中戦略競争が韓国で重大な脅威になるなど環境が変わり、国民の認識も変化し、日本の戦略的価値の再評価につながっていると話した。日本に対する信頼度は 41.2% で、韓米日安保協力の強化支持は 75.3% へ急上昇。鄭総領事は「韓日関係はもはや選択ではなく必須で、国民も同様の結論に至っています。今年 6 月の認識調査では対日外交の優先課題は未来志向的な協力が 49.6% で、歴史問題の解決（31.5%）を上回りました。日本に対する成熟した認識が韓国で定着してきました」と述べた。

⑤の分野別ビジョンでは、昨年 6 月からの 1 年間に韓日首脳会談は 7 回行われ、両国民 1,329 万人が毎年互いに訪問、全韓国人の約 20% が毎年訪日している計算で、人的交流の広がりを評価した。特に 18 歳から 39 歳までの韓国の若者の日本への好感度は 74% 台と高く、日本を直接体験して食文化やアニメ、音楽など日本の魅力を実感しているという。

鄭総領事は最後に「未来志向の韓日関係を築くためには 2 つの国、社会の間に多層的な接点を広げ、相互理解に根差した信頼を積み重ねていくことが大切です。総領事館は人と人、地域と地域のつながり、をつくり、それをさらに広げていく役割を担っています。頑張りますので、皆様のご支援、ご協力をお願いしたいと思います」と締めくくった。

この後、懇親会に移り、梅村清英・学校法人梅村学園理事長の発声で乾杯、講師を囲んで交流するなど親睦を深めた。



鄭総領事の講演に耳を傾ける財界倶楽部会員



学校法人梅村学園
梅村清英理事長 乾杯の音頭